

## 平成20年度「市政懇話会」第3回地域コミュニティの充実と強化部会 議 事 概 要

日 時：平成20年9月2日（火）13：30～15：25

場 所：鳥取市役所駅南庁舎地下1階第2会議室

出席者：【委 員】八村輝夫部会長、吉田茅穂子副部会長、池長綾子委員、吉村  
あけみ委員

（欠席）川口博子委員、須崎俊雄委員、坂本匡範委員

【事務局】 枡谷

○部会長）最近近所では独居老人の世帯が増えており、若い世代がいる世帯は数件に満たない。このような状況の中、各地区で状況は違うわけであるが、行政にしろ、我々にしろ、こうなってほしいという状況があるわけで、そのような「こうあってほしい」という議論をするのが我々の役目かなと考えている。

### ●資料の説明（事務局）

○部会長）1番目のテーマ「公民館のあり方」のうち、「公民館設置校区の見直し」とはどういった意味か。

○委員）鳥取市では、だいたい小学校単位に1つの公民館があるそうであるが、1小学校区に2つ公民館がある場合には、それぞれに行事がある、そこで子ども達や大人が遮断されてしまう部分がある。他との公民館との交流がないと、子どもの行事にしても、そこで寸断されてしまう。運動会などは、今年はこの公民館を主体に動いて、次の年はこの公民館を主体に動こうというように交代で行っており、行事的にはどちらもいいことをやっている。ただ、そこで交流が無ければ生かされていかない。運動会は交代で行っているが、文化祭はまったく別個でやっている。小学校では、小学校の子どもと一緒に活動するので、子どもがいる家庭はいいが、子どものいない家庭は、他の行事に参加できない。そのような行事に参加を希望する人もたくさんいるので、そのあたりの交流がもったいないなあと感じる。

○部会長）ということは、片方の公民館に統一しなさいというよりも、行事などを連携して行うということか。

○委員）分館などのやり方もあるということなので、そのような形で一体化できないのかなあとも思う。千代水公民館は、城北、世紀、賀露小学校区にまたがっている。また、世紀小学校区には、豊実、松保、千代水の3館が設置されているそうである。そのことによって問題が発生しているかについては分からないが、今、公民館単位のまちづくりが始まっている。だから、そこで出てくる問題もあるのかなあ。まちづくりが始まった以上は、今の公民館単位でまちづくりをされるので、今後の課題かなというところ。国府の方では、子どもの数が少なくなって、岩倉小学校、宮ノ下小学校などで校区分けの見直しをしていると聞いている。小さい規模の神戸小学校とか、逢坂もそうであるが、鳥取市内からそのようなところに通わせる制度もある。これから学校の統廃合も始まってくるのであれば、その時に公民館との位置づけをどうされるか。

これは、今議論するよりは、今後の課題なのかなという気がする。

○部会長) 我々としてもここをこうしなさいと言える話ではないと。

○委員) まちづくりが地区の公民館で始まっているので、どこの地区も既に取り組んでおられる。その中でも考えていかなければならない問題である。これは大きな問題である。林副市長も言っておられたが、住民感情や、その実情にあった形で物事を考えていかないと。行政が一方的にするものでもないし。そのあたりは、少子高齢化の時代の課題かなとも感じる。

○部会長) それについては慎重に考えないといけない。

○事務局) 「見直し」という形ではなく、住民感情などを勘案しつつ、実情にあった最も活動しやすい形を検討していくということか。

○委員) そうである。

○事務局) この箇所については、表現を改めたい。

○部会長) 他に何か御意見があるか。

○委員) この中では、地域に精通する職員の育成とあるが、今自治会との連携をとり始めたら、だんだん職員も精通してくる部分もあるのかなあと感じる。ただ、行政の窓口を公民館が担う部分があるというふうに聞いているので、その点では職員の研修などをされると思うし、実際されていると思うので、その辺で解決できる問題かもしれない。鳥取市内の公民館の現状はどうか。

○委員) もちろん町内会と自治会は連携している。町内会費の一部をその地区の公民館の運営費に補てんしているなので、なるべくなら、その地区の住民に公民館を利用してもらいたいということはあると思う。ただ、公民館の方にお話すると、利用する方は何回も利用するが、同じ方ばかりになってしまう。例えば、秋に文化祭をすると、出品される方はいつも決まった方ばかりで、来られる方も決まった方ばかりである。出てこられない方はいつも出てこられない。公民館の存在すら、自分の生活に関係ない方が多い。生涯学習ということがよく言われるが、生涯学習がなぜ大切かという、公民館を利用し、お互いに交流できるからであるという方もいらっしゃる。その意味で、いろんな方が公民館を利用しやすいことが必要であるし、行って楽しむことができることが重要である。何かためになったようなことが一度でもあれば、また公民館を訪れる。公民館には、図書でもいろんな良い本が揃えてある。そういうのもあまり利用されてないみたいであるし、公民館側ももう少しPRすることが必要である。魅力ある公民館づくり。そういったことも、館長や職員がどれだけ地域に精通しているかということにもかかわってくる。公民館も来るものを待っているだけではなく、もう少し上手なPRの仕方が必要ではないか。

○委員) 自分の住んでいるところの公民館は、そのあたりの仕掛けが非常に上手である。

○委員) そこでそういう方を呼んで、こういうふうにしたら皆さん来られますよと、情報を伝える。そういうことは本当に必要である。ただ、場所によって、畑ができるところもあれば、住宅地にあって駐車場に困るようなところもある。ただ、狭いなら狭いなりに仕掛けはあると思う。

○委員) そのためには地域のことが良く分かる職員がうまく仕掛けをして、どんどん来てもらうことができれば。ただ、住民もよく行く人と行かない人もある。

○委員) 1回でも行けば、こうなんだと、こんなことがあるんだと、そしたらもう1回行こうと。最初のきっかけが重要である。

○部会長) そうすると、公民館の職員や館長さん方が情報交換していくことが重要であるということか。

○委員) 女性リーダーの養成に関して、昼間は皆働きに出ていて、女性と高齢者の方しかいない。家にいる人は、介護などいろいろと事情もあるが、自治会でも少しずつでも取り組まないといけない。自治会の方でも女性リーダーの研修的なものをもってもらえるといいなあと感じる。

○委員) 自分の近所では、昼間にいるのは70歳代の高齢者ぐらいである。女性もいない。皆働きにでていて。県でも徳島県との防災協定を結んでいたが、災害が発生したときに町内会同士で連絡を密にして支援しあうとか、又は町内会と鳥取市の危機管理課などとの連絡・連携体制をしっかりと整備することが重要である。

**○部会長) 何かあった場合の連絡網はどのようになっているのか。近所の栗谷や構谿では、大雨が降ると水につかる。その際は、ゴムボートなども必要になってくると思うが。**

**○委員) また、避難所に避難した際に、どれだけの人数が収容できるのか、実際に確認してみる必要がある。その際、避難所に避難しきれず、あふれてしまった人についてはどうなるのか。実際に何人人口があり、指定された避難所にそのすべてが避難した際に、収容しきれるかどうか、また、1坪あたりどれくらいの人員を収容するのか、計算して欲しい。**

○事務局) そのあたりについては、次回までに確認する。

○部会長) 1箇所の避難所にその地区の住民がすべて入ることはまずないだろうからということで、避難者をすべて受け入れるようには考えていないのではないか。その場合は、民間施設と協定を結ぶことも考えられる。

○委員) 防災の対策は、きっちりとした連絡網の整備と避難場所の確保につきる。

○委員) 防災リーダーの輪番制はいいなあと感じる。定年も65歳までになりつつあり、なかなか手もない。輪番制であれば、研修も皆で受けることもできるし、多少なりとも広がりがあると感じる。

○委員) 昔は自警団の活動も活発だった。そのような活動によりお互いに顔が分かるということもあり、いい活動だったと思う。

○委員) 合併により自警団の活動補助金も少なくなってしまった。

○委員) お金の問題でなく、ボランティアでもいいので、自警団のような組織を作るということは大切なことではないかを感じる。

○委員) 最近鳥取市では、大きな災害がない。したがって、危機意識も希薄になっている。意識だけでも持って、そのような事態に備えることが重要である。

また、この間は愛知県の水害もあったが、抜本的な対策が足りていない。

○部会長) というよりは、最近は予想していない量の雨が降っているのではないか。

○委員) 今まで日本で経験してないような気候等の状況を想定しなくてはならなくなって

いる。

○委員) 最近は、海の方が竜巻も発生している。これが民家であれば大変なことである。

○部会長) 異常気象があらゆるところで多発しているにもかかわらず、住民の意識が高まっていないこともあるし、避難勧告を出したのに、それに応じたのが十何%だったというニュースもあった。

○委員) 現実として希薄な危機感が問題である。

○委員) アメリカのタイフーンの場合は、来ることが確実で、被害の規模も想定できるので、今回ははやばやと避難したのではないか。

○委員) 問題は地震と集中豪雨である。それに対する被害をどのように最小限に留めるかが重要である。

**○部会長) 防災マップは市で今作っているのか。また、どのあたりまで公表しているのか。**

○委員) 車でもハンマーを装備しておく必要がある。車が水に水没するときは、エンジンの重みで前から沈むので、後ろにいて、後ろの窓をハンマーで壊して脱出するそうである。具体的な脱出方法などを普段から認識しておく必要がある。また、自分の意識の中で、そのような事態を想定し、ハンマーなどをあらかじめ装備しておくことが重要である。

○部会長) ハザードマップなどで、危険箇所を近所の人も皆で認識しておく必要がある。

○委員) 災害が発生したときは、まずは、自分の身の安全の確保。それから近所の人となる。そのような場合には、行政うんぬんといっていたら手遅れになるので、近所の人の方が力になるのが一番である。ただ、そこにいくまでのコミュニケーションが実際にとれているのか。

○委員) 一人住まいの家には、周りで絶えず気を配っていく必要がある。あまり範囲が広がると手にも負えないので、向こう3軒両隣あたりでできるとよい。その辺で自治会の力が重要となる。

○委員) 自治会の力は、これからの暮らしの中では大きくなると思う。

○委員) 意見・提言書(たたき台)の自主防災の(4)避難場所の確保から下は、行政にしっかりがんばってもらいたい分野である。上の方は自治会が力を入れてやっていかなければならない。

○委員) 山の方も大事だと思うが、森林環境保全税はどのようになっているのか。

○部会長) 森林整備に使っていると思うが、ごく一部ではないか。それが皆に知られているというところまでにはなっていないように感じる。

○委員) せめて訓練を積極的に行わなければならない。町内会単位でもいいので。

○委員) 校区単位で行っているが、参加者が少ない。

○部会長) そうすると、訓練の大切さについて皆の理解を得て訓練に参加してもらうような仕組みを考えるかが課題になるか。

○委員) 自治会の役割が重要になる。

○委員) これは火災も当てはまる。立て続けに大榎町付近で火事があった。風が無く大事には至らなかったが。

○部会長) そのときは、消火栓から水が出なかったということがあったので、日頃から確認する必要があると感じる。

○委員) 消火栓に消防ホースをつないで掃除をすることがあったが、実際に使用するといろんなことが分かる。ホースがものすごい力で振られることもあり、つなげるにしてもコツがいる。慌てるとおそらくできない。

○部会長) 慌てるとおそらく栓を開くこともできない。

○委員) 市街地では放水まではなかなかできないが、せめて消火栓の点検ぐらいはしないとけない。

○部会長) 防災について大まかにとりまとめると、訓練を行う必要があるということと、意識を高める必要があるということか。

訓練に出て行ってもらうために、どうやって危機意識を持たせるかが課題である。

○委員) 自分のところでは小さい単位で消火器のあるところに集まって訓練を行っている。火災についてはそのようなことをしているが、その他の災害については避難所の確認ぐらいである。

○委員) やはり基になるのは地域のつながりである。地域のつながりのあるところでは、消火訓練なども行うことができる。向こう3軒両隣での地域のつながりがあって訓練の参加者も確保できる。

○委員) これからは自治会が元気にならないといけない。自治会が一番顔の見える範囲である。自治会の活動には必ず参加するという意識を持つことが大事である。

○部会長) それも農村部と中心部で対策が異なってくる。街なかの方が難しい。それをどうするか。

○委員) 自分のところでは人任せのところがある。公務員を含め、人材はたくさんいるが、昔は、公務員は税金で給料をもらっているのだから、退職したら地域に貢献し、地域のために尽くすのが義務であると町長さんなどは言っていたようである。公務員は、率先して地域づくりに参加すべきだと思うが、すべての公務員がそのような意識を持って地域活動に参加していないのが実情である。

○委員) 行政としても、公務員が55歳過ぎあたりからきっちり地域貢献ができるように配慮すべきである。

○委員) 話は戻るが、地域コミュニティという観点から考えると、やはり若者にボランティアの精神を教えることが重要であると感じる。小さいときの教育はずっと残る。いろんな意味で、今の時代ボランティアの育成が大切である。

○部会長) ボランティアを行っている若者は多い。まだまだ足りてはいないが、社会の受け入れ体制が整っていないと厳しいのかなと感じる。例えば、海外青年協力隊など海外でボランティア活動をしていても、終って帰国した時に、雇ってもらえるのかという問題がある。海外に出てボランティア活動をしたいという若者が多いが。

○委員) 積極的に、そのような人を受け入れる体制を整備することが必要である。

○委員) 受け入れる体制と、そのような人を育てる体制も大事である。

○委員) 地域の風土もある。東部はやや消極的な雰囲気がある。

○委員) 地域が発展しようと思えば、元気のいい人が増えないといけない。元気のいい女性、元気のいいリーダー、元気のいい市の職員。皆が元気をだして、一丸となって腰を上げないと、この問題は解決しない。市民全体の問題である。

○部会長) そのためには、やっぱり誰かが動かないといけない。

○委員) 今はなかなか出たがらない。自治会の役員でもなかなか受けてもらえない。そういう人たちをどういうふうに上手に引っ張っていくのか。そのあたりが非常に苦勞するところである。

○部会長) 次は自治会活動に入りたい。

○委員) 自治会活動については、まず自分が参加すること。それで、自分を人に覚えてもらう。また、人を覚える。それから始めて仲間作りをしなければならない。婦人会の活動でも、まず小さいグループから始めたが、結構今でもその付き合いが続いている。そのように、自治会でも、小さい単位から始めると割合集まるのではないか。それをつなげていくということになるのではないかと感じる。

○委員) 老人クラブと子ども会の連携は、昔からの知恵や作法などを伝えていく上でも非常に重要である。が、子ども達が非常に忙しい現状で、どのようにそれを実現していくかが課題である。

○委員) 高齢者と子どもとの間の中間層についても、該当する団体が無い。だからつながりが無い。

○委員) おやじの会が力を発揮できる中間層だとは思う。それが充実してないのはもったいない。

○部会長) よくやっているところもあるが。

○委員) 公民館がよく高齢者と子どもの世代間交流をセットしている。ただ、それも公民館主体の話で、地域内では根付いていない。中間層は働きざかりの時であるので。

○委員) 中間層は出にくい。

○委員) そこで公務員などに社会貢献で引っ張ってもらったりする必要もでてくる。

○委員) 今の日本の状況も、ガソリンなど物価高などで振り回されていて、生活防衛に精一杯で、中間的ネットワークの構築などと悠長なことを考えるゆとりのある人はいない。日本の生活や景気が安定しないといけない。

○委員) やはりそんな時代の中でも、絶えず皆で考えていかないといけない。

○委員) 子どもも大人も忙しい日本になっているので、確かに腰を据えて考えられる人が何人いるかは疑問である。しかし、人が人として生きていって、だんだん年老いていって、力が弱くなったときに、人間らしい生き方ができるかということは、一番大事なことである。年老いたときに、地域全体で見守っていけるような地域にしたいのかどうなのか。年老いた人などを見守っていくことが、あたりまえのように、人としてできるのか。また自分もそのような人を目指すのか。大きなテーマではあるが、その

ようなことではないかと感じる。

○委員) 日常のあいさつから始めないと、つながりはできない。

○委員) 普段から顔見知りになるということは大事なことである。

○委員) 自治会については、情報の分かりやすい発信が必要である。住民としても、こまめな情報の発信がないと、自治会は役をしている人だけのものという印象を受けてしまう。

～事務局より連絡～

- ・ 本日の意見を踏まえ修正したものを、次回会議開催までに送付する。
- ・ 次回の会議は、11月の10日の週と17日の週で調整する予定。
- ・ 次回は防災・自治会関係の担当課の参加を求める。

以 上